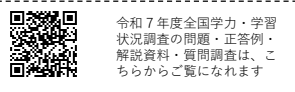


<調査の概要>

- 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査実施日
令和7年4月17日（木）
（中学校理科は、令和7年4月14日～17日で実施）
- 調査の対象
小学6年生：国語・算数・理科・質問調査
中学3年生：国語・数学・理科・質問調査



(小中共通)

- 教科に係る結果では、小中学校とも、いずれの教科においても全国と比べて低い状況です。
- 国語では、小中学校ともに、必要な資料を用いて伝える工夫ができており、様々な教科等の学習場面で活かしている成果が出ていると考えられます。一方、自分の考えを分かりやすく文章で表現することに課題があります。
- 算数・数学では、計算等の技能は定着していますが、それを支える知識の定着に課題があります。また、知識を生かして言葉で問題解決の方法を説明することに課題があります。
- 理科では、科学的な知識の定着や、結果を考察し、新たな問題を見いだすなどの問題解決・探究的な活動の経験不足がうかがえます。
- どの教科も考えを記述することに課題があるので、各教科等様々な場面において自分の考えを書いて表現する場面をつくり、対話をおして考えを深め、よりよい表現にしていける授業づくりをしていく必要があると考えます。
- 児童生徒の生活習慣・学習習慣に課題があることから、家庭・地域とより連携した教育活動の中で主体的に学習に取り組む態度を育むとともに、学力を着実に身につけることのできる授業づくりが大切であると考えます。

<結果の概要> ※文章の後ろの(数字)は調査問題の設問番号を表しています

<国語>

<平均正答数>		市	全国
小学校		8.4問/14問	9.4問/14問
<小学校>		平均正答率	
		市	全国
全体		60	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70 76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	53.3 63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.8 81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.6 66.3
		B 書くこと	60.9 69.5
		C 読むこと	50.9 57.5
評価の観点	知識・技能		67.5 74.5
	思考・判断・表現		56.5 63.8
問題形式	選択式		58.1 64.7
	短答式		71.9 78.5
	記述式		48.4 58.8

★良好なところ

- 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。(2二)
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いたり、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えたりすること。(3一)

▲課題となるところ

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること。(3三)
- 複数の資料に書かれている事柄を理由にして、自分の考えをまとめて書くこと。(2三)
- 文脈に即して漢字を正しく書くこと。(2四イ)

<算数>

<平均正答数>		市	全国
小学校		8.0問/16問	9.3問/16問
<小学校>		平均正答率	
		市	全国
全体		50	58
学習指導要領の領域	A 数と計算	56.1	62.3
	B 図形	47.3	56.2
	C 測定	44.7	54.8
	C 変化と関係	49.8	57.5
	D データの活用	54.6	62.6
評価の観点	知識・技能	57.9	65.5
	思考・判断・表現	40.6	48.3
問題形式	選択式	59.9	67.2
	短答式	56.8	64
	記述式	26.1	34.9

★良好なところ

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ったり、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだしたりすること。(1(1))
- 異分母の分数の加法の計算をすること。(3(4))

▲課題となるところ

- 分数の加法について、通分することの意味について理解し、言葉を用いて記述すること。(3(2))
- 「10%増量」の意味を解釈し、増量後の量が増量前の量の何倍になっているかを表すこと。(4(4))

<理科>

<平均正答数>		市	全国
小学校		8.1問/17問	9.7問/17問
<小学校>		平均正答率	
		市	全国
全体		47	57.1
学習指導要領の区分・領域	「エネルギー」を柱とする領域	38.4	46.7
	「粒子」を柱とする領域	44.3	51.4
	「生命」を柱とする領域	37.7	52
	「地球」を柱とする領域	57.5	66.7
評価の観点	知識・技能	44.5	55.3
	思考・判断・表現	50.1	58.7
問題形式	選択式	44.7	54.7
	短答式	61.1	69.7
	記述式	35	45.2

★良好なところ

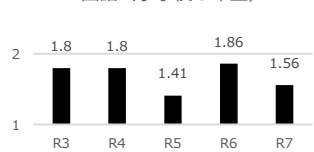
- 土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現すること。(1(1))
- 電磁石の強さはコイルの巻き数によって変わることについての知識。(2(3))

▲課題となるところ

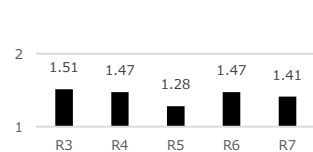
- 身の回りにある金属について、電気を通すもの・磁石に引きつけられる物があることの知識。(2(1))
- 実験結果の差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。(3(4))

<正答率40%以下の児童生徒の割合（全国を1とした場合）>

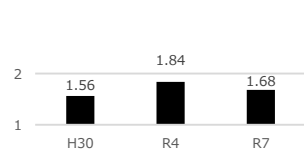
国語（小学校6年生）



算数（小学校6年生）



理科（小学校6年生）



<経年変化（平均正答率）>

小学校	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	市	全国	対全国比	市	全国	対全国比	市	全国	対全国比
国語	61	67.2	0.91	59	67.7	0.87	60	66.8	0.90
算数	57	62.5	0.91	55	63.4	0.87	50	58	0.86
理科							47	57.1	0.82

正答率40%以下の児童の割合は、前年度に比べて改善傾向が見られたものの、全国に比べて高い割合です。今後も個別最適な学び（児童生徒の定着度や興味関心に基づいた学び等）や協働的な学びを充実させ、学習したことを活用していく力を育成する必要があると考えます。

<調査の概要>

- 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査実施日 令和7年4月17日（木）
（中学校理科は、令和7年4月14日～17日で実施）
- 調査の対象 小学6年生：国語・算数・理科・質問調査
中学3年生：国語・数学・理科・質問調査



令和7年度全国学力・学習状況調査の問題・正答例・解説資料・質問調査は、こちらからご覧になれます

（小中共通）

- ・教科に係る結果では、小中学校とも、いずれの教科においても全国と比べて低い状況です。
- ・国語では、小中学校ともに、必要な資料を用いて伝える工夫ができており、様々な教科等の学習場面で活かしている成果が出ていると考えられます。一方、自分の考えを分かりやすく文章で表現することに課題があります。
- ・算数・数学では、計算等の技能は定着していますが、それを支える知識の定着に課題があります。また、知識を生かして言葉で問題解決の方法を説明することに課題があります。
- ・理科では、科学的な知識の定着や、結果を考察し、新たな問題を見いだすなどの問題解決・探究的な活動の経験不足がうかがえます。
- ・どの教科も考えを記述することに課題があるので、各教科等様々な場面において自分の考えを書いて表現する場面をつくり、対話をおして考えを深め、よりよい表現にしていける授業づくりをしていく必要があると考えます。
- ・児童生徒の生活習慣・学習習慣に課題があることから、家庭・地域とより連携した教育活動の中で主体的に学習に取り組む態度を育むとともに、学力を着実に身につけることのできる授業づくりが大切であると考えます。

<結果の概要> ※文章の後ろの(数字)は調査問題の設問番号を表しています

<国語>

<平均正答数>		市	全国
中学校		6.3問/14問	7.6問/14問

<中学校>			平均正答率	
			市	全国
全体			45	54.3
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	43.6	48.1
		(2) 情報の扱い方にに関する事項		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	43.4	53.2
		B 書くこと	42.1	52.8
		C 読むこと	53.6	62.3
	評価の観点	知識・技能	43.6	48.1
思考・判断・表現		45.4	55.3	
問題形式	選択式	55.4	63.9	
	短答式	65.4	73.6	
	記述式	14.5	25.3	

★良好なところ

- ・目的に応じて、必要な資料を選び、伝えたいことを明確にすること。(1(2))
- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること。(3(2))

▲課題となるところ

- ・根拠を明確にして考えを文章に表現すること。(1(4))
- ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。(2(一))
- ・文脈に即して漢字を正しく使うこと。(1(一))

<数学>

<平均正答数>		市	全国
中学校		5.3問/15問	7.2問/15問

<中学校>		平均正答率	
		市	全国
全体		35	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	32.1	43.5
	B 図形	34.2	46.5
	C 関数	34.5	48.2
	D データの活用	42.6	58.6
評価の観点	知識・技能	42.9	54.4
	思考・判断・表現	23.8	39.1
問題形式	選択式	45	54
	短答式	38.8	52
	記述式	24.4	39.6

★良好なところ

- ・必ず起こる事柄の確率について理解すること。(7(1))

▲課題となるところ

- ・素数の意味や相対度数の意味を理解すること。(1,5)
- ・連続する二つの3の倍数について理解し、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだすこと。(6(2))
- ・図形の証明や関数における問題解決の方法等について数学的に説明すること。(4,9(2)(3))

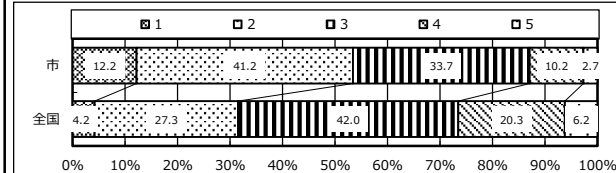
<理科>

<IRTスコア>		市	全国
中学校		439	503

中学校理科は1人1台端末を活用したオンライン（IRT方式）で実施。IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は全日程共通と実施日より異なる公開問題、生徒ごとに異なる非公開問題があります。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、全国平均を基準とした得点で表したものです。

<中学校 IRTバンド分布比較> ※IRTバンド…IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準にバンドとし、5が最も高いバンドとなります。



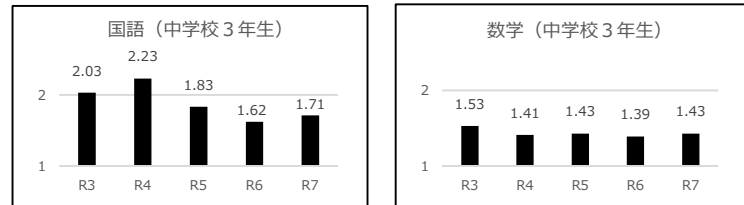
★良好なところ

- ・実験における実験器具の操作等に関する技能。(5(1))
- ・気体の性質に関する概念的な知識。(4(2))
- ・収集する資料や情報の信頼性についての知識。(2(2))
- ・電気回路における抵抗に関する概念的な知識。(3(2))

▲課題となるところ

- ・考察したことをより確かなものにするために、実験経過を計画し、予想される結果を記述すること。(2(1))
- ・元素を記号で表すことに関する知識及び技能。(5(2))

<正答率40%以下の児童生徒の割合（全国を1とした場合）>



<経年変化（平均正答率）>

中学校	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	市	全国	対全国比	市	全国	対全国比	市	全国	対全国比
国語	61	69.8	0.87	49	58.1	0.84	45	54.3	0.83
数学	41	51.0	0.80	43	52.5	0.82	35	48.3	0.72
理科							439	503	
英語	37	45.6	0.81						

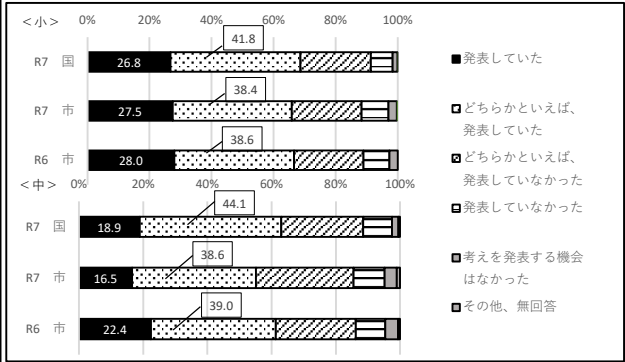
※令和5～6年度全教科、令和7年度国語・数学は平均正答率で、令和7年度理科はIRTスコアで表記しています。

正答率40%以下の生徒の割合は、国語・数学ともに全国に比べて高い割合で、前年度よりも課題が大きくなっています。今後も個別最適な学び（児童生徒の定着度や興味関心に基づいた学び等）や協働的な学びを充実させ、学習したことを活用していく力を育成する必要があると考えます。

<質問調査の結果概要>

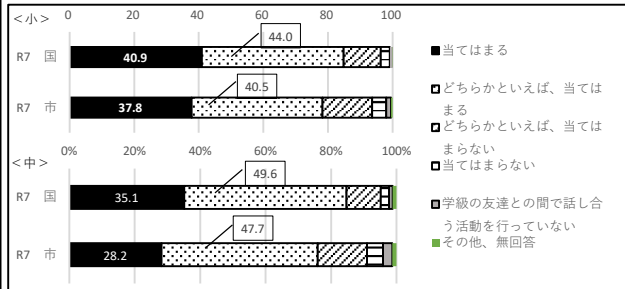
<学習について>

■5年生（1，2年生まで）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手に伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



自分の考えを発表する際に、自分の考えが上手に伝わるように工夫をすることが大切です。今年度は、小学校で「発表していた」と回答した児童の割合が全国平均よりも高いですが、昨年度よりも低くなっています。日々の授業で意識して学習していることがうかがえます。一方、中学校については課題が大きくなったことがうかがえます。今後社会で活躍するにあり、相手に伝わる表現が必要な場面は多々あります。国語科を中心に、文章や話の組立て方を学び、それを各教科等での発表などの場面で活用することで、しっかりと身につくと考えます。

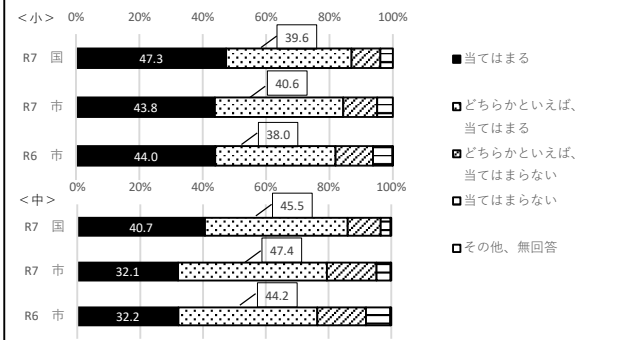
■学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



肯定的な回答の割合が全国より低いことから、課題があると考えます。各校においては「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、子どもたちが対話する場をたくさん設けています。しかし、自分の意見を表明するだけに終わる、そこから考えを深めたり、新たな考え方に気付くところまでは進んでいないことがうかがえます。対話の場面では、例えば同じところ・違うところを意識して聞き、それについて意見を伝えたり質問をしたりすることで考えが深まっています。対話することで、学びが深まったり、一人では考えつかなかったことに気付いたりすることができるが、集団で学習する良さです。その良さを感知し、学ぶことの楽しさに加え、互いの良さを認め合える関係性を育めるような授業を展開することが大切だと考えます。

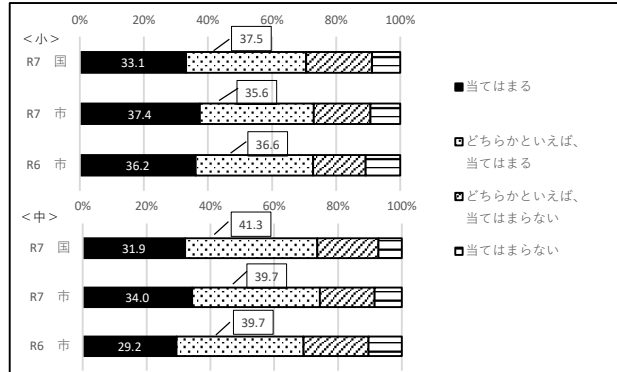
<自己有用感等について>

■自分には、よいところがあると思いますか。



肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小中学校ともに全国より低く、課題があることがうかがえますが、年々割合が高くなってきています。各校では、子どもたちが関わり合う場面等を通して、互いを知り、認め合う関係性をつくるような取組みを進めており、その成果が出ていることがうかがえます。自尊感情や自己有用感（自己を他人の役に立つ存在だと思える感情）を高めることは、人との安定したコミュニケーションにつながったり、新たなことや困難なことに挑戦しようと思える感情につながったりします。そのためには、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを見守り、活躍できる場を創出する必要があると考えます。

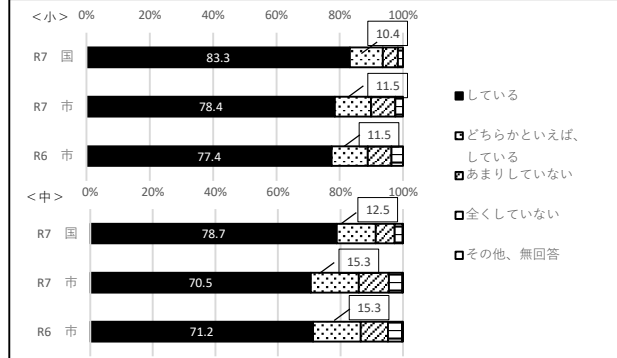
■困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小中学校ともに年々高くなっており、今年度は共に全国を上回りました。これまで、学習指導や生徒指導の場面で丁寧な対応を積み重ねてきた成果であると考えます。また、学習支援員や子どもサポーター等を配置することで、子どもたちが安心して学校生活を送れるようになっていることもうかがえます。学力向上には、まず教職員をはじめとした大人と子どもたちとの信頼関係の構築や安心できる学校づくりが不可欠です。今後も、子どもの声に寄り添い、丁寧に対応していきたいと考えます。

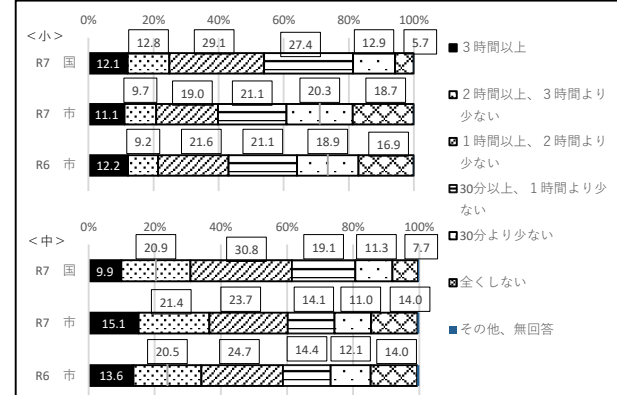
<生活について>

■朝食を毎日食べていますか。



朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、全国よりも低いですが、小学校では昨年度を上回りました。朝食は、一日の学習や運動のエネルギー源であり、集中力や心の安定にもつながっています。子どもたちが学校で元気いっぱい活動できるためにも、毎日朝食をとる習慣をつけていただきたいと思います。

■学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



小学校においては、30分以下の児童の割合が39%で、全国の割合より20.4ポイント高くなっています。また、中学校においては、2時間以上勉強をする割合が全国を上回っている一方で、30分以下の割合も全国より6ポイント高くなっており、二極化していることがうかがえます。学校質問調査「調査対象学年の児童（生徒）」に対して、前年度までに、家庭学習の取組みとして、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたか」で「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校25.0%、中学校9.1%と、全国を下回っています。各校において自主学習の取組みを進める等、工夫をこらしているところですが、家庭学習の方法を丁寧に教え、継続的に指導していくことが大切だと考えます。

<調査の概要>

1. 調査の目的 子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を向上させ、社会を生き抜く力を着実につける。
2. 調査実施日 令和7年4月18日（金）
3. 調査の対象 大阪府内小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年
4. 調査の内容 5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生：わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート

<結果の概要> ※文章の後ろの(数字)は調査問題の設問番号を表しています

<国語>

★良好なところ

- ・文中の助詞を正しく使うこと。(2(1),(2))
- ・文を正しく理解し、指示語の指示内容を捉えること。(7(1),(2))
- ・一文を二文に分けて書くとき、文と文の意味のつながりを考えた適切な接続語を使うこと。(9)

▲課題となるところ

- ・文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を正しく書くこと。(3(1),(2))
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、適切な接続表現を使って一文で書くこと。(10)
- ・文の中における主語と述語の関係を抑えて、文の内容を正しく理解すること。(12(2))

分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
		全体	17	62.5	69.2
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	15	65.5	72.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	60.2	68.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	19.9	21.9
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと	— 5 —	— 60.2 —	— 69.1 —
評価の観点	知識・技能	知識・技能	17	62.5	69.2
		思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	5 —	60.2 —	69.1 —
問題形式	選択式 短答式 記述式	選択式	8	59.4	65.9
		短答式	9	65.2	72.2
		記述式	—	—	—

助詞を正しく使うなど、適切に使用する機会が多い言葉の使い方は身に付いています。一方、主語と述語の関係に注意して文章を書き表すことに課題がみられます。日常的に文章を書く機会を確保しながら、その度に、適切な言葉の使い方ができているのかを見直すことで、改善していくことができると考えます。

<算数>

★良好なところ

- ・円の直径についての理解を通して、1枚の画用紙に円を何個かくことができるかを考えること。(1(1))

▲課題となるところ

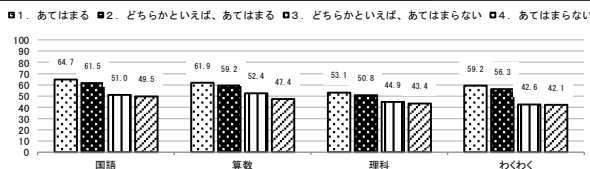
- ・ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を図を用いて比較し、メダカが基準の数からどのくらい増えたかを、割合を用いて説明すること。(2(3))

具体物を用いて、数や図形などの概念を理解することが必要です。課題となった問題においては、割合の概念、テープ図の読み取り、基準となる量の特定など、複合的に考える力が求められます。文章と図から必要な情報を捉え、これまでに身につけた力を生かして考える必要があります。

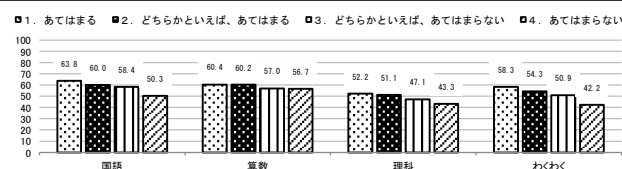
分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
		全体	6	60.0	67.9
学習指導要領の領域等	数と計算	数と計算	1	63.2	72.1
		図形	3	67.6	75.6
		測定/変化と関係	1	43.2	54.8
	データの活用	データの活用	2	56.8	63.0
評価の観点	知識・技能	知識・技能	3	59.0	66.1
		思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 —	61.0 —	69.8 —
問題形式	選択式 短答式 記述式	選択式	2	64.7	68.4
		短答式	2	64.2	72.9
		記述式	2	51.0	62.5

<児童アンケート結果(抜粋) 平均正答率とクロス集計>

話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている

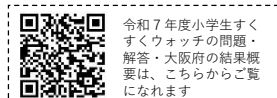


友だちと協力するのは楽しい



<各教科平均正答率>

	令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	市	府	対府比	市	府	対府比	市	府	対府比
国語(5年)	71.5	78.3	0.91	67.8	73.4	0.92	62.5	69.2	0.90
算数(5年)	31.1	37.5	0.83	28.0	36.7	0.76	60.0	67.9	0.88
理科(5年)	54.6	62.3	0.88	57.6	61.9	0.93	51.5	59.8	0.86
理科(6年)	67.7	73.1	0.93	58.0	63.7	0.91			



<理科>

★良好なところ

- ・水が蒸発することについて理解すること。(1(3))
- ・暖かい空気は上方へ流れるという性質を理解し、火事で避難するときに取るべき姿勢を考えること。(2(1))

▲課題となるところ

- ・日陰の位置は太陽の位置によって変わり、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあるということを理解し、現在の日陰の位置を予測すること。(1(6))
- ・水のしみこみ方は、土のつぶの大きさによって違いがあるということを理解し、水たまりができなかった理由を考えて、書き表すこと。(2(4))

身につけた概念的な知識を身近な事柄と関連付けて考える習慣が大切です。身のまわりの現象に疑問をもち、それを解決するために、身につけた知識・技能を活用することで学んだことを定着させることができると考えます。

分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
		全体	12	51.5	59.8
学習指導要領の領域等	「エネルギー」を柱とする領域 「粒子」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域	「エネルギー」を柱とする領域	2	47.6	56.8
		「粒子」を柱とする領域	4	61.7	70.1
		「生命」を柱とする領域	1	64.0	69.2
		「地球」を柱とする領域	5	42.3	51.0
評価の観点	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	6	52.1	62.1
		思考・判断・表現	6	50.9	57.6
		主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式 短答式 記述式	選択式	7	55.9	61.0
		短答式	3	49.9	65.1
		記述式	2	38.4	47.9

<小学校5・6年>【わくわく問題（教科横断型問題）平均正答率】>

		令和5年度			令和6年度			令和7年度		
		市	府	対府比	市	府	対府比	市	府	対府比
全体		65.9	71.4	0.92	55.5	63.3	0.88	63.4	70.8	0.90
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	74.4	80.0	0.93	57.5	65.6	0.88	67.4	74.4	0.90
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをとらえ論理的に考える。	51.5	56.9	0.90	48.3	56.5	0.86	63.3	70.3	0.90
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをとらえ新たな課題を考える。	67.3	75.4	0.89	59.0	68.8	0.86	51.4	61.9	0.83
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをとらえ自分の考えをまとめ、伝える。	62.7	68.6	0.91	65.8	74.3	0.89	63.9	72.3	0.88
	E 興味・関心のある事柄について、意欲的に工夫して相手に伝える。	84.8	89.5	0.95	79.3	85.3	0.93	51.4	61.9	0.83

★良好なところ

- ・図や表、グラフ、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえること。

▲課題となるところ

- ・身近なところから課題を見いだしたり、それと関連付けて自分の考えたことを説明したりすること。

課題の改善のためには、子どもたちが身近なところから疑問をもち、それを解決していこうと思える探求的な学びを実践することが有効です。体験的な学びのさらなる充実、情報活用能力や言語能力を育てていくことが大切であると考えます。

アンケートの項目と平均正答率のクロス集計の結果、「話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている」や「友だちと協力するのは楽しい」という項目において、肯定的に答えている児童は平均正答率が高いことが分かりました。「協働的な学び」を推進する中で、子どもたちが話し合う機会を積極的に設けています。今後も他者と協力する機会を積極的に取り入れながら、話し合うときには、自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見を最後まで聞いているかということも大切にしていきます。

<調査の概要>

1. 調査の目的 児童の学力の状況と課題をより的確に把握し、それに応じた学習指導の改善や充実に役立てる。
2. 調査実施日 令和7年4月23日(水)
3. 調査の対象 市内小学校3・4年生(3年生:1,407名 4年生:1,479名 合計:2,886名)
4. 調査の内容 国語、算数

<結果の概要(国語)>

3年生		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		61.8	0.85	62.0	0.85	58.8	0.87
基礎活用	基礎	68.9	0.86	71.0	0.88	69.6	0.90
	活用	47.7	0.83	44.0	0.76	37.1	0.76
観 点 別	知識・技能	68.8	0.86	69.2	0.89	68.4	0.92
	思考・判断・表現	54.9	0.84	52.9	0.80	51.9	0.82
	主体的に学習に取り組む態度	46.5	0.84	40.1	0.71		
領 域	言葉の特徴や使い方に 関する事項	74.8	0.87	78.5	0.91	73.3	0.92
	情報の扱い方に 関する事項	42.0	0.80	27.8	0.70	24.8	0.96
	話すこと・聞くこと	62.0	0.85	71.2	0.89	57.3	0.88
	書くこと	47.4	0.84	36.9	0.67	34.8	0.64
	読むこと	57.5	0.82	57.1	0.84	56.1	0.85
解答形式	選択	61.9	0.86	59.2	0.85	61.1	0.91
	短答	70.3	0.85	77.3	0.91	67.4	0.90
	記述	46.5	0.84	40.1	0.71	37.6	0.70

4年生		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		62.9	0.89	60.3	0.82	56.6	0.85
基礎活用	基礎	68.4	0.90	65.3	0.83	60.4	0.86
	活用	50.4	0.84	49.9	0.79	48.4	0.81
観 点 別	知識・技能	63.8	0.89	59.2	0.82	56.1	0.86
	思考・判断・表現	55.7	0.87	56.3	0.81	56.8	0.83
	主体的に学習に取り組む態度	46.3	0.83	43.4	0.72		
領 域	言葉の特徴や使い方に 関する事項	69.0	0.89	61.3	0.81	56.2	0.86
	情報の扱い方に 関する事項	40.8	0.82	42.9	0.81	41.1	0.78
	我が国の言語文化に 関する事項	81.1	1.00	73.1	0.88	70.7	0.92
	話すこと・聞くこと	75.0	0.91	73.5	0.90	52.9	0.85
	書くこと	41.6	0.80	41.3	0.71	44.2	0.68
解答形式	読むこと	60.0	0.90	62.7	0.84	68.5	0.91
	選択	65.4	0.90	67.9	0.86	62.5	0.89
	短答	75.2	0.91	61.8	0.83	59.9	0.87
	記述	43.0	0.80	39.9	0.70	40.9	0.70

★良好なところ

- (3年生)
- ・話し手が知らせたいことを聞き漏らさないように聞くこと。
- (4年生)
- ・説明文で、叙述を基に文章の内容を捉えたり、中心となる語や文を見つけて要約したりすること。
 - ・漢字を正しく読むこと。(3,4年生)

▲課題となるところ

- (3年生)
- ・事柄の順序を捉え、接続語を使って分かりやすくまとめること。
 - ・相手に伝わるように、経験したことに基づいて事柄の順序を考えて話すこと。
 - ・伝えたいことを明確にし、内容のまとまりが分かるように文章に書くこと。
- (4年生)
- ・司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめること。
 - ・書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えること。

漢字などの「知識及び技能」「言葉の特徴や使い方に
関する事項」については、おおそ定着していることがうかがえます。一方、「書くこと」の領域の問題や記述問題は、課題が大きくなっています。
読書などを通して様々な言葉を身につけるとともに、文章の構成などを意識して書く活動を充実させる必要があると考えます。また、学習したことを各教科の学習に活かすなど、他教科と関連付けて定着をはかるような授業改善が求められていると考えます。

<結果の概要(算数)>

3年生		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		67.5	0.90	68.4	0.88	67.8	0.90
基礎活用	基礎	74.6	0.93	73.2	0.90	72.7	0.91
	活用	42.2	0.78	51.0	0.79	47.4	0.81
観 点 別	知識・技能	71.6	0.92	71.2	0.89	69.4	0.90
	思考・判断・表現	49.8	0.84	53.1	0.81	59.6	0.88
	主体的に学習に取り組む態度	61.5	0.91	61.3	0.84		
領 域	数と計算	69.7	0.90	70.0	0.88	71.7	0.92
	図形	50.9	0.84	62.3	0.86	47.3	0.80
	測定	70.5	0.93	65.6	0.86	67.8	0.87
	データの活用	81.8	0.99	78.4	0.92	73.8	0.92
解答形式	選択	67.9	0.90	64.8	0.87	66.8	0.89
	短答	70.3	0.91	74.9	0.89	72.4	0.92
	記述	16.6	0.77	48.0	0.74	25.8	0.68

4年生		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		64.5	0.90	64.8	0.90	64.5	0.89
基礎活用	基礎	68.1	0.90	67.9	0.90	68.5	0.90
	活用	53.9	0.91	56.6	0.88	50.2	0.85
観 点 別	知識・技能	70.1	0.92	68.4	0.91	68.9	0.90
	思考・判断・表現	44.6	0.81	51.9	0.84	48.9	0.84
	主体的に学習に取り組む態度	69.5	0.93	68.9	0.92		
領 域	数と計算	64.2	0.89	61.6	0.88	64.2	0.89
	図形	66.9	0.90	69.6	0.91	77.0	0.91
	測定	57.8	0.89	75.0	0.92	63.6	0.88
	データの活用	84.2	0.98	65.2	0.93	51.8	0.85
解答形式	選択	64.7	0.90	65.7	0.90	68.4	0.91
	短答	67.8	0.89	67.5	0.91	64.6	0.89
	記述	40.0	0.86	39.6	0.76	30.3	0.67

★良好なところ

- (3年生)
- ・たし算や九九などの計算をすること。
 - ・数直線上に示された数を読み取ること。
- (4年生)
- ・小数のしくみを理解すること。
 - ・同分母のたし算の計算をすること。

▲課題となるところ

- (3年生)
- ・直方体や正方形の特徴について理解すること。
 - ・数の大小と不等号の意味を理解すること。
- (4年生)
- ・小数の減法(13-7.8)の計算をすること。
 - ・棒グラフを読み取り、2つの数を比較して何倍かを求めること。
 - ・2kgを超えないように、3冊目の本を選び、選んだ理由を説明すること。

計算についての技能は、おおそ定着していることがうかがえます。一方、数学的な表現を用いて説明することにも課題があります。具体物に触れて考えたり、どのように考えたのか子ども一人ひとりが理由を説明できるようにしたりするような数学的活動の充実が求められていると考えます。